

日本海洋学会 2013 年度第 5 回幹事会 議事録

日時：2013 年 11 月 15 日（金）13：30～17：30

場所：竹橋 パレスサイトビル マイナビルーム 9 階 D

出席者：植松会長、須賀副会長、岡、小畑、川合、河野、久保田、杉崎、鈴木、原田、日比谷、山中、寄高、事務局毎日学術フォーラム（出戸、平坂）

欠席者：神田、津田

議題

1. 議事録（案）確認（川合幹事）

2013 年度第 4 回幹事会および秋季評議員会の議事録を確認した。

2. 審議事項

(1) 入退会について（岡・小畑幹事）

2013 年 8-9 月の入退会を承認した。入会 29 名、退会 8 名、逝去 4 名、2013 年 9 月末現在会員数 1797 名。

(2) シンポジウム等の後援・協賛等について（岡・小畑幹事）

3 件について、ML を通じて審議し承諾したことが報告された。

(3) 募集・推薦等の依頼（岡・小畑幹事）

公募・推薦の依頼、その他シンポジウム・講演等の案内について、適宜 ML を通じて周知、対処したことが報告された。また、1 件の転載許諾を認めた。

(4) パンフレット案について（原田幹事）

パンフレット案が提示され、修正箇所の指摘があった。税抜 8 万円で 1000 部印刷予定である。

(5) 奨励論文賞の細則見直しについて（岡・小畑幹事）

i. 奨励論文賞細則の改訂について議論した結果、受賞対象者を現在の「当該論文の受付日に筆頭著者が学生会員または 28 歳未満の通常会員であったもの」から、「論文の受付日から 2 年以内に学生であった会員あるいは論文の受付日に 30 歳未満の会員」という内容へ改訂することが提案された。庶務幹事が細則の改定案を作成し、幹事会に諮った後、評議員会において審議することとなった。

ii. 論文受付時に学生でありながら通常会員であった者を受賞対象とする件について審議した結果、指導教員が学生であったことを証明する書類を事務局に提出し、履歴を学生会員に変更することで受賞対象として認めることとなった。

iii. 連作の複数の論文を 1 件の受賞対象としてよいか審議したが、細則に「論文を 2 編以内選びその筆頭著者に与える」とあるため、連作を 1 件ととらえることはできないことが確認された。

- iv. 筆頭著者でなく連絡著者が主な執筆者である場合があったため、「筆頭著者が学生会員または28歳未満の通常会員」という細則を改訂する必要があるかどうかを議論した。客観的にこのような事実を確認することは困難であることから、細則の見直しは不要であるという結論となった。
- (6) 転載許諾申請書フォーマット（岡・小畑幹事）
海の研究の転載許諾について、申請書および許可書のフォーマット案が提示され、承認された。JOについては著作権について調査したのちに再度審議することとなった。NLについては津田担当幹事に確認することとする。
- (7) 消費税増税に伴う諸支出増加への対応（岡・小畑幹事）
来年度消費税の増税に伴い、印刷代および事務局経費などの支出の増加が見込まれる。さらなる収支改善について、会計担当幹事を中心に検討を行う。
- (8) 海の研究（22-6：将来構想委員会報告書）別刷りについて（岡・小畑幹事）
将来構想委員会で著者分の必要数を確認し、印刷発注は学会用の200部と併せて行うこととなった。著者による支払いは、通常の印刷物販売と同様の方法で行う。学会からの配布先未定の約70部については、岡幹事が配布先リスト(案)をまとめることとなった。
- (9) JO 特別セクションの申請について（日比谷幹事）
特別セクション「“Hot Spots” in the Climate System: New Developments in the Extratropical Ocean-Atmosphere Interaction Research」の申請があった。JO編集委員会の審議では承認の意向を確認済みである。編集委員数が11名と多すぎるため、3-4名にすることを条件に承認することとなった。
- (10) JO の新編集委員について（日比谷幹事）
海洋化学担当のJO編集委員として西岡純会員が推薦され、承認された。

3. 報告事項

- (1) 植松会長
SCOR ワーキンググループ設立や各種委員会委員の推薦を行ったことについての報告があった。また、法人化対応シンポジウム参加の報告があった。
- (2) 須賀副会長
グローバルマリンアセスメント専門家登録推薦についての報告があった。
- (3) 庶務（岡・小畑幹事）
JST に秋季大会著者抄録の送付を行ったこと、賞・研究助成へ会員の推薦を行ったこと、環境省事業「重要海域の抽出」への協力依頼についてMLで会員に周知したことが報告された。
- (4) 編集
(a) JO（日比谷幹事）

順調に発行している。却下率が非常に高いため、投稿・掲載に課金することを検討したい。日比谷幹事が草案を作成し、春の総会・評議員会に向けて議論を開始する。自己剽窃の疑義がある論文について、類似論文が多数存在することが明らかになった。本論文は却下するとともに、著者に警告を与えることとした。

(b) 海の研究（久保田幹事）

新規の印刷契約について、契約書案などの説明があった。

(c) JOSNL（津田幹事代理小畑幹事）

人事往来（所属変更のみ）を掲載してはどうかという提案があったが、名簿変更についてののお知らせは年1回発行されるため、NLに載せる必要はないという結論となった。

(5) 研究発表（鈴木幹事）

秋季大会の収支は連絡待ちである。

(6) 選挙（山中幹事）

各賞可否投票について、推薦書の提出が12/16締切であること及び今後のスケジュールについての説明があった。

(7) 広報（杉崎・原田幹事）

学会HPでリンク切れなどがある。気づいた点があれば連絡をいただきたい。

(8) JpGU（寄高、原田幹事）

代議員選挙の結果、7名の海洋学会員が代議員として選出されたこと、オープンアクセスジャーナルの投稿受付を開始したことが報告された。

(9) 海洋未来技術研究会・日本海洋科学振興財団（須賀副会長）

海外渡航援助1件の報告書が提出された。次号NLに掲載予定である。次の募集は12月を予定している。

(10) 震災対応（神田幹事代理植松会長）

学術会議汚染検討分科会に神田幹事が参加することになった。

(11) 若手支援（須賀副会長）

若手集会支援の実施報告が提出され、NLに掲載された。秋季大会において若手会員から要望のあった若手ML開設を進めている。niftyのサーバーを利用する予定である。学生会員全員を登録し、それ以外の登録希望者の追加や削除は事務局へのリクエストに応じて行うこととなった。

(12) その他（植松会長）

海洋未来技術研究会への入会案内への反応がほとんどない。対応策を検討中である。

次回幹事会 1月中旬（未定）時間・場所未定